

第 51 期

事業報告

(2019年度)

自 2019年 4 月 1 日
至 2020年 3 月31日



公益財団法人
内藤記念科学振興財団

〔Ⅰ〕第51期（2019年度）事業概要

内藤記念科学振興財団は、1969年4月7日付け、委大第4の1号をもって文部大臣より設立の許可を受けて、定款に定められた諸事業を開始した。2019年4月1日から2020年3月31日に至る第51期（2019年度）の事業活動として、定款第3条に掲げる、「人類の疾病の予防と治療に関する自然科学」の研究を奨励し、もって学術の振興と人類の福祉に寄与することを目的として、定款第4条に基づき下記の諸事業を行った。

1. 第51期（2019年度）の事業について

2019年度は、以下の事業を実施した。

（1）公募事業

① 科学振興賞（褒賞）（定款第4条第1項第2号）

科学振興賞は、当財団が定めた日本遺伝学会ほか計32の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、14件の候補を受け付け、選考委員会で審査した後、理事会において受賞1件を決定した。

② 科学奨励金・研究助成（定款第4条第1項第1号）

科学奨励金・研究助成は、367件の申請を受け付け、80件を採択したが、採択決定後1件の辞退があり79件の採択となった。

③ 科学奨励金・若手ステップアップ研究助成（定款第4条第1項第1号）

科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は、9件の申請を受け付け、3件を採択した。

2017年度からの継続分1件、および2018年度からの継続分3件を合わせ、合計7件を助成した。

④ 女性研究者研究助成金（定款第4条第1項第1号）

女性研究者研究助成金は、出産や育児によって研究を中断した女性研究者の研究職場への復帰と研究業績向上の支援を目的として設立された。2019年度は75件の申請を受け付け、20件を採択した。2017年度からの継続分19件、および2018年度からの継続分20件を合わせ、合計59件を助成した。

⑤ 次世代育成支援研究助成金（定款第4条第1項第1号）

2016年度より、次世代の基礎研究者育成を支援するため、新たに次世代育成支援研究助成金を創設した。本年度は143件の申請を受け付け、10件を採択した。2017年度および2018年度からの継続分それぞれ10件を合わせ、合計30件を助成した。

⑥ 海外研究留学助成金（定款第4条第1項第4号）

海外研究留学助成金は、89件の申請を受け付け、10件を採択した。

⑦ 海外学者招聘助成金（定款第4条第1項第5号）

海外学者招聘助成金は、15件の申請を受け付け、15件を採択した。

以上、②～⑦までの6事業については、全国の国立・公立・私立大学など700余の自然科学系研究機関の長、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼した。なお、⑦の海外学者招聘助成金については、このほかに当財団が定めた32学会（長）にも推薦を依頼した。受領者の採択は、選考委員会での審査・選考を経た後、理事会で決定されたものである。

⑧ 講演助成金（定款第4条第1項第7号）

当財団が定めた32の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、国際会議の開催時期に応じて、四半期毎に年4回申請を受理した結果、29件を受け付け、選考分担理事4名および選考委員長で構成される審査会で審議の上、常務理事が決裁し、29件を採択した。

⑨ 特定研究助成金（定款第4条第1項第1号、第7号）

2020年度に開催予定の第49回内藤コンファレンス『マイクロバイオームの健康・医療への応用』の組織委員5人に900万円、第50回内藤コンファレンス『物理的・機械的視点が拓く生物学』の組織委員4人に750万円、合計9人に総額1,650万円を助成した。

公募助成金の応募件数と採択件数、2019年度助成金額は次のとおりである。

褒賞および助成金の実績

科 目	申請数	採択件数	採択率	予 算	贈呈額
科学振興賞（含金メダル）	14 ^件	1 ^件	7%	10,600,000 ^円	10,601,810 ^円
科学奨励金・研究助成	367	79	22	240,000,000	237,000,000
科学奨励金・若手ステップアップ研究助成	9	3	33	25,000,000	11,500,000
（2018年度からの継続分）	1	1	100		4,500,000
（2017年度からの継続分）	3	3	100		9,200,000
女性研究者研究助成金*1	75	20	27	120,000,000	40,000,000
（2018年度からの継続分）*2	19	19	100		38,000,000
（2017年度からの継続分）	20	20	100		40,000,000
次世代育成支援研究助成金	143	10	7	60,000,000	20,000,000
（2018年度からの継続分）	10	10	100		20,000,000
（2017年度からの継続分）	10	10	100		20,000,000
海外研究留学助成金	89	10	11	45,000,000	45,000,000
海外学者招聘助成金	15	15	100	10,000,000	8,800,000
講演助成金*3	29	29	100	10,000,000	14,400,000
特定研究助成金	9	9	100	18,000,000	16,500,000
合 計	813	239	29	538,600,000	535,501,810

*1 1件助成開始が次年度となる。

*2 今年度1件辞退あり。

*3 3件開催延期。

以上、公募9事業において、申請813件に対して239件を採択し、総額535,501,810円を助成した。ただし、女性研究者研究助成金1件が次年度からの助成開始となること、講演助成金で3件開催延期となることから支払った助成金額は、総額532,001,810円である。なお、上記助成額に加えて、科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は2,150万円、次世代育成支援研究助成金は6,000万円、女性研究者研究助成金は1億2,000万円の次年度以降の支払いが、すでに確定している。

全ての助成金の受領者一覧表を 添付資料 として巻末に掲載した。

（2）助成事業以外の事業

① 講演事業（定款第4条第1項第7号）

a. 第47回内藤コンファレンスの開催結果

2019年7月2日（火）午後から7月5日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロにおいて、大阪大学大学院工学研究科 茶谷直人教授を組織委員長として、第47回内藤コンファレンス『C-H結合の活性化と変換』を開催した。

2019年度の費用総額は2,718万円であった。

b. 第48回内藤コンファレンスの開催結果

2019年10月8日（火）午後から10月11日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレーゼ
ガトーキングダム サッポロにおいて、九州大学 井上和秀理事・副学長・特任教授を
組織委員長として、第48回内藤コンファレンス『感覚系サイエンスの最前線－痛覚、
痒覚、嗅覚、味覚』を開催した。2019年度の費用総額は2,969万円であった。

c. 第49回内藤コンファレンスの開催準備

2020年7月に開催を予定する第49回内藤コンファレンス『マイクロバイオームの健康・
医療への応用』（組織委員長 慶應義塾大学 本田賢也教授）の準備のため、組織委員会
を編成しプログラムをまとめた。開催準備費用として、2019年度は20万円を支出した。

d. 第50回内藤コンファレンスの開催準備

2020年9月に開催を予定する第50回内藤コンファレンス『物理的・機械的視点が拓く生
物学』（組織委員長 京都大学 森泰生教授）の準備のため、組織委員会を編成しプログ
ラムをまとめた。開催準備費用として、2019年度は48万円を支出した。

e. 2021年度以降の内藤コンファレンス開催準備

2021年度以降に開催を計画する内藤コンファレンスを検討するため新規テーマ検討委員
会を開催し6回の内藤コンファレンスのテーマを決定した。その検討ならびに開催準備
費用として105万円を支出した。

② 内藤記念くすり博物館での企画展示（定款第4条第1項第6号）

理事会での承認を得て、内藤記念くすり博物館での資料収集・展示事業として企画展『薬局
方のあゆみ－確かな品質のくすりを求めて－』を開催し、開催費用として400万円を支出した。

③ 広報誌「内藤財団時報」の発行（定款第4条第1項第8号）

本誌発行の目的は、当財団の設立趣旨と研究助成事業等の活動内容を公表し、大学・研究
機関等およびご支援を受けた寄附者などの多くの関係者に、当財団への理解を促すとともに、
定期的に活動内容のレビューを行うことにより、多方面からの継続的な支援を願うことに
ある。

第104号（2019年9月5日）および第105号（2020年3月17日）を発行し、寄附者、全国の研究
機関、当財団の役員等関係者、助成金受領者、報道関係、他財団等に配布した。

*『内藤財団時報』第104号……………B5判114頁、2,200部、126万円

*『内藤財団時報』第105号……………B5判116頁、2,200部、121万円

合計247万円を支出した。

2. 事業報告附属明細書

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものがない。